

中学校の運動部活動は、こんなふうに行われています！

～平成23年度中学校運動部活動アンケート結果から～

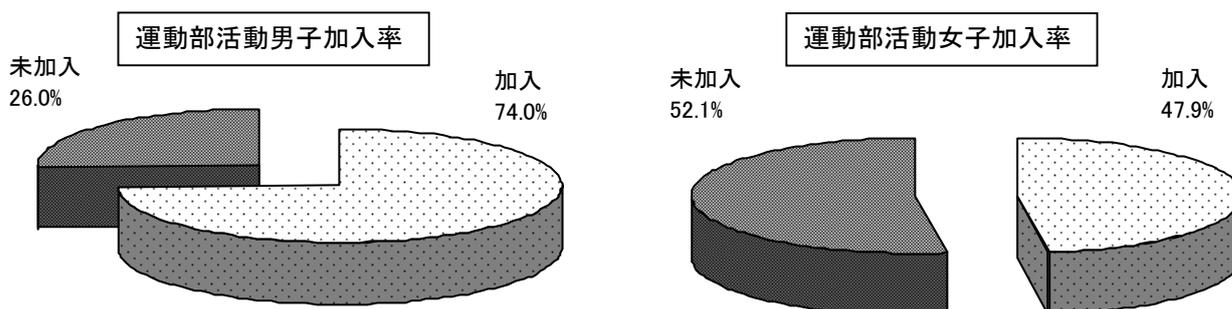
長野県教育委員会事務局スポーツ課



- 調査時期 平成23年6月～7月
- 対象学校 県内公立中学校187校
- 調査方法 質問紙法

1 どのくらいの中学生が運動部活動で活動しているの？

県内の中学生の37,845名（男子23,510名 女子14,335名）が運動部で活動しています。これは県下の中学生の61,3%に当たります。男女別の加入率は男子が74.0%、女子が47.9%になります。



2 複数の入部は認められるの？

複数の入部を認めない学校が多く、78.1%になります。冬季スポーツ(スキー・スケート)との複数入部や大会参加のために暫定的に複数入部を認めている学校があります。

3 仮入部はみんなあるの？

仮入部は、98.4%の学校で実施し、実際に活動を体験した上で、正式に入部することになっています。実施していない学校は、小規模校で、部数の少ないところです。

4 活動計画は誰が立案しているの？

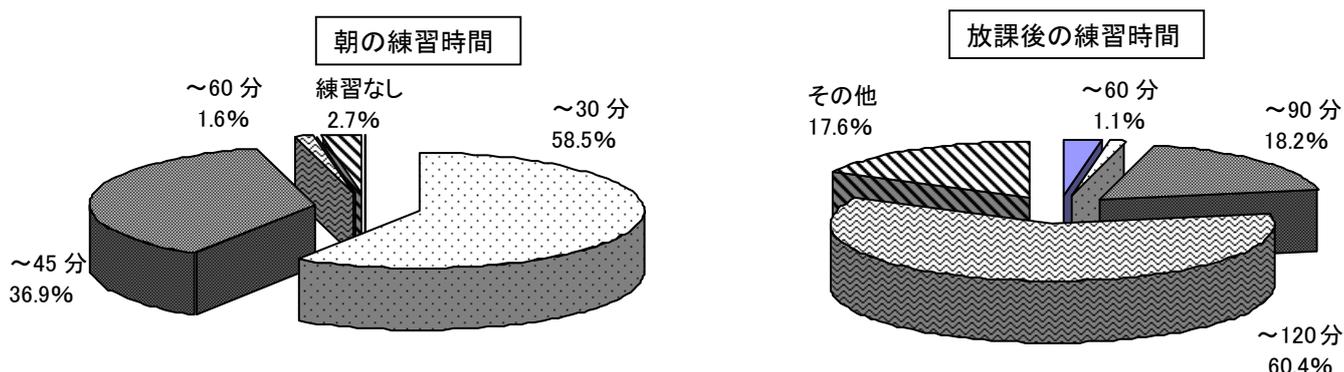
顧問が立案している学校が32.6%、生徒の意見を聞きながら共に立案している学校が18.2%あります。最も多いのは、顧問が保護者や外部指導者と協議して立案する学校で、47.1%でした。

5 どのくらい練習しているの？

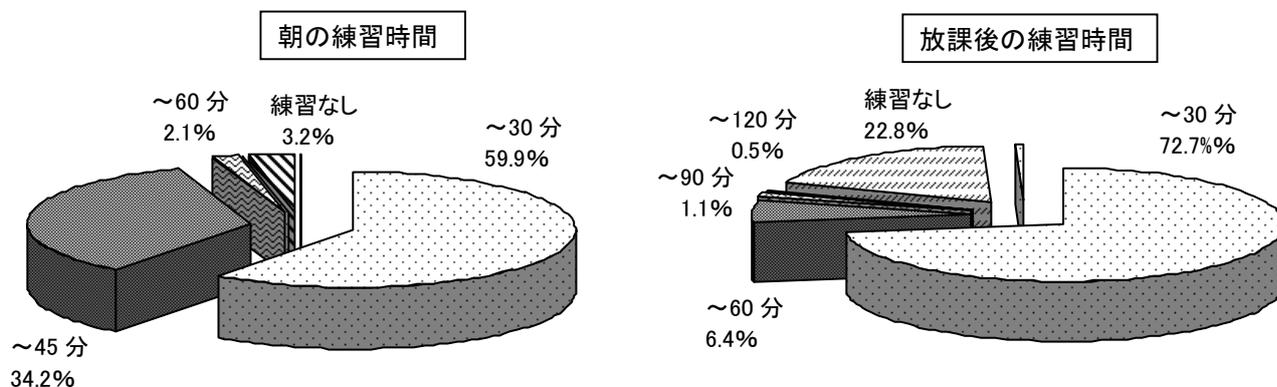
○放課後の練習時間を、シーズン中とシーズンオフで切り替えている学校が多くあります。

○1年を通じて朝の練習を実施していない学校は5校あります。

【シーズン中・・・中体連の本大会が盛んな主に一学期】



【シーズンオフ・・・中体連の新人大会のある二学期から冬の練習】



6 大会前の練習時間は、どうしているの？

大会前(1ヶ月前～2週間前が多い)は、各学校とも生徒が十分に練習時間を確保できるよう配慮しています。

- 練習時間を延長する
 - 学校一斉の休日でも練習可能とする
 - 土曜日・日曜日でも練習可能とする
 - 5時間授業等日課を弾力的に運用
- などがあります。



これらの活動は、生徒の健康面や帰宅時の安全面(下校時刻の厳守など)を十分考慮し、学校長の指導のもと、全職員、保護者の理解を得て進めています。

7 休日(放課後 /一部活テ一)の実態は？

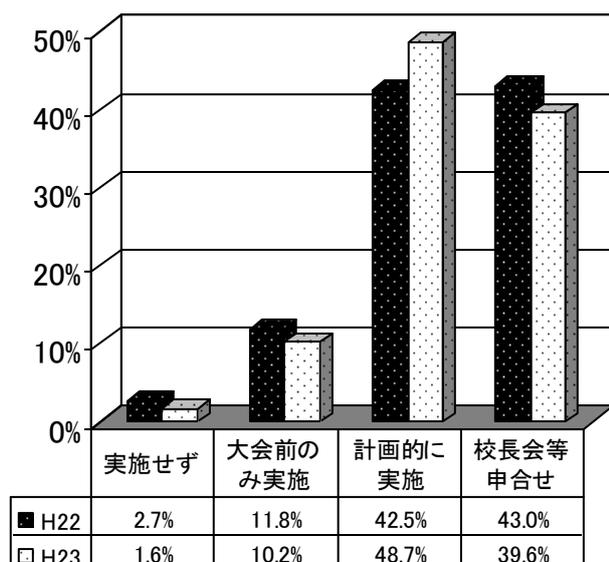
休日を一齐に設けている学校は85.6%あり、一齐ではないが各部ごとに休日を設けている学校は4.3%ありました。約90%の学校で休日を設定していることになります。

休日の設定は、月曜日・水曜日が多くなっています。

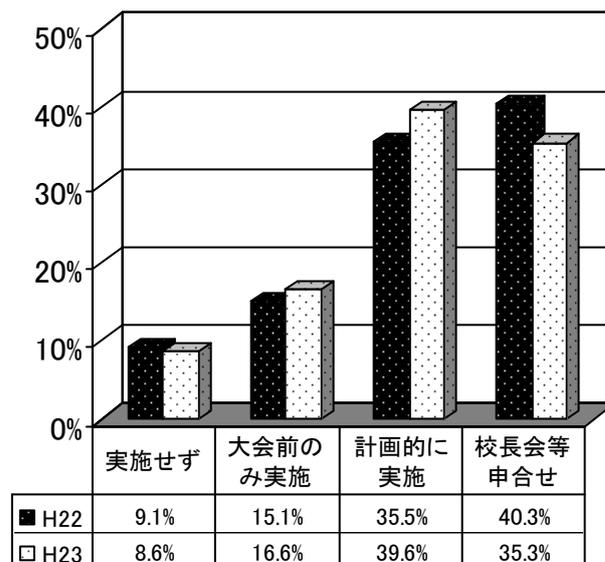
8 週休日等の部活動は？

土曜日、日曜日・祝祭日ともに、一番多いのは、「年間を通して計画的に実施」でした。昨年度は、「校長会の申し合わせ」の項目が多かったのですが、大会前等に計画的に実施している学校が増えてきました。

【土曜日】



【日曜日・祝祭日】



9 保護者への理解は？

- 保護者と懇談会を実施している部がある学校 100%
- 部活動参観を実施している部がある学校 約93%
- 部活動通信を出している部がある学校 約90%

学校一齐に部活動に関する懇談会を実施している学校は95.7%あり、昨年度より約3%増え、活動に対する理解が得られるよう取り組んでいます。

また、多くの学校で「部活動通信」「学級・学年だより」「PTA新聞」等により、保護者へ活動の紹介・連絡等が行われています。

地域の方と部活動に関する懇談会を実施している学校は約37%あります。

(19年度 32% 20年度 35% 21年度 36% 平成22年度 34%)

10 合同部活動は必要？

少子化による部員数の減少などにより、大会に出場できない部や活動が継続できない部を抱えている学校があります。このため、今後、合同部活動が必要になると考えている学校が109校（約58%）あります。しかしながら、地理的な条件等解決していかなければならない課題も多いです。23年度は17校で合同部活動が実施される予定です。

【部員不足のため22年度大会に出場できなかった部】

○6部(20年度 12部)

【23度から廃部等になった部】

○18部(22年度 20部)

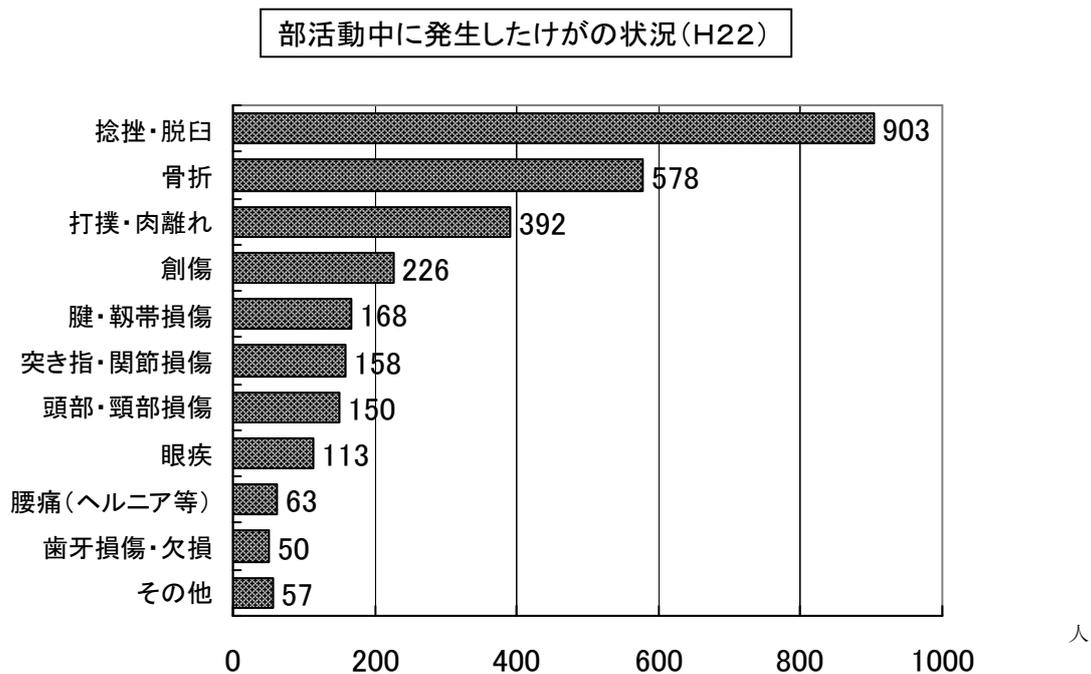
【近隣校との合同部活動の必要性】

○今後必要である 58.3%



11 部活動中に多いケガは？

ケガの発生率は、全運動部員数の約7.6%（21年度 約7.6%）でした。



※ 件数は22年度日本スポーツ振興センターへ申請されたものです

12 顧問は専門家？

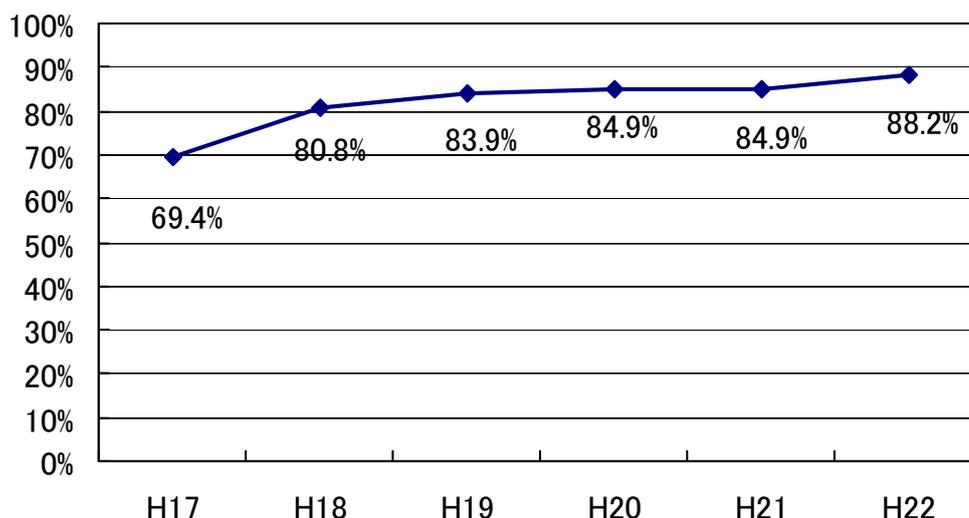
運動部の指導に携わっている顧問は、2,842人います。そのうち運動経験がなかったり自分の専門外の種目を指導したりしている顧問は、約61%(1,744人)います。

13 外部指導者の活用は？

22年度は165校(約88%)で841人の外部指導者が活用されました。外部指導者として地域の方々が活用される機会が増えています。

(21年度は158校(約85%)で751人が活用)

過去6年間の外部指導者を活用している学校の割合



14 スポーツ活動運営委員会の設置は？

地域・学校・家庭がともに力を合わせ、生涯学習の一環としてのスポーツ活動を生徒に保障するため、県教委が中学校への設置を推進している「スポーツ活動運営委員会」は、H23.6月現在、139校に設置されています。組織のメンバーには、校長(129校)、教頭(132校)、部活動主任(131校)、養護教諭(10校)などの学校関係者のほか、市町村教育委員会(47校)、保護者(108校)、外部指導者(98校)、体育指導委員、体育協会役員、民生委員、体育協会、公民館主事、スポーツ少年団の代表等々、多くの地域の方々にもご参加いただいております。

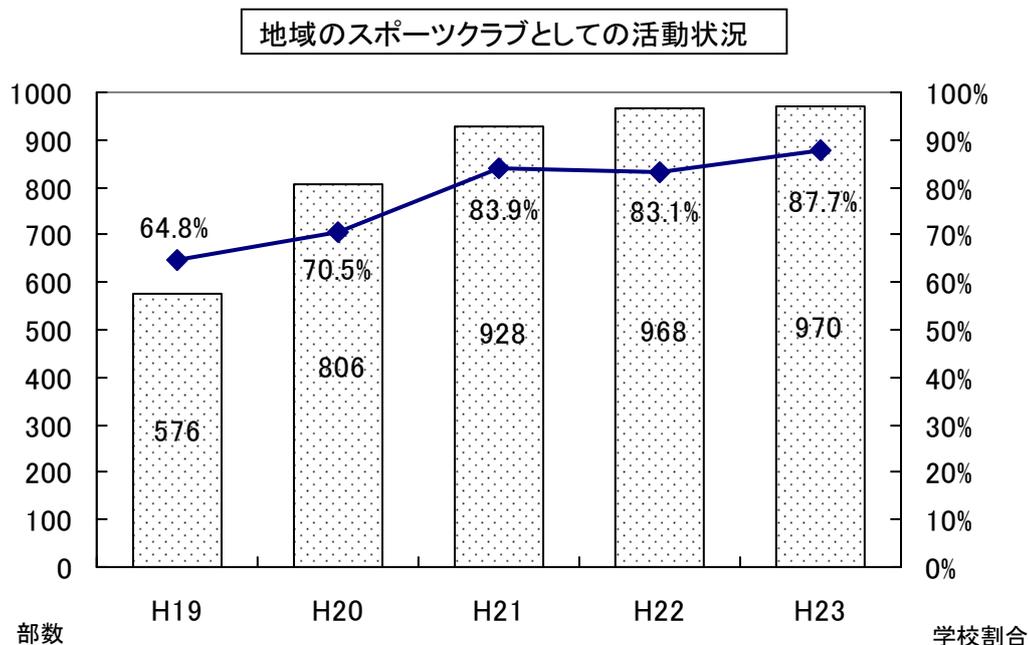
15 総合型地域スポーツクラブと部活動の関係は？

現在、総合型地域スポーツクラブが校区に設立されている中学校は40校あり、そのうち20校で部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携が図られています。また、校区で立ち上げが進められている中学校は19校あり、総合型地域スポーツクラブとのより良い関係を探っていこうとしています。

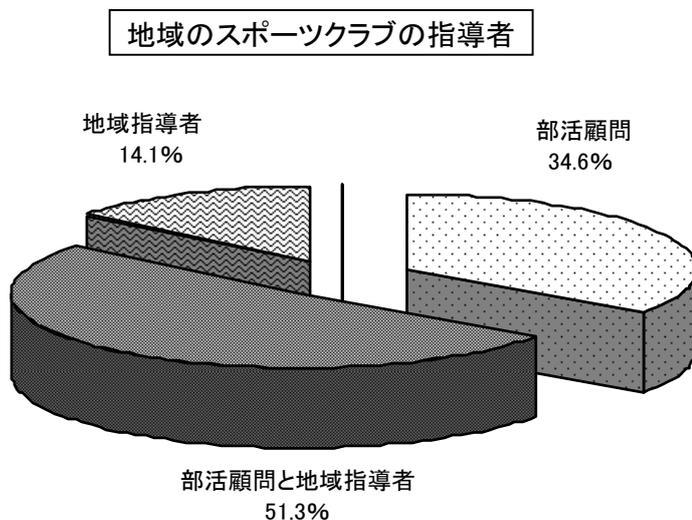
16 学校の運動部活動以外でも活動しているところは？

(1) 運動部活動終了後や日曜・祝日などに、地域のスポーツクラブ(社会体育)として活動している運動部は、970部(164校・87.7%)あります。

(22年度 968部 157校 約83.1%の学校)



(2) 運動部の顧問だけで指導がされている部は34.6%、顧問と地域の指導者によって指導がされている部は51.3%、地域の指導者だけに指導されている部は14.1%あります。



1 運動部活動加入率

- ・運動部活動加入率は県下の中学生の61.3%に当たります。昨年度より1%の減となりました。特に女子の加入率は昨年度の49.0%から47.9%となりました。
- ・学校の部活動には加入せずに、地域のクラブチームで活動している生徒数は昨年度から約730人増加して、男子2,540人、女子1,240人の計3,780人(6.1%)となりました。

平成20年度に女子生徒の運動部活動の加入率が50%を切り、以降低下傾向が続き、女子の運動離れの傾向がうかがえます。また、他の調査から、学校の部活動には参加せず、地域のクラブチームで活動する生徒が増える傾向もうかがえます。

運動部活動が生徒にとって魅力あるものになるためには、生徒の希望が叶う活動が保障され必要があります。そのため、運動部活動において、より専門的な指導が受けられるよう、更に、外部指導者の充実を図っていく必要があります。「長野県地域スポーツ人材活用支援事業」により、外部人材の発掘と派遣を行なっています。

また、勝利至上主義の指導に偏らないような適切な部活動指導のために、県で作成した「運動部活動指導の手引き」の内容について引き続き周知をし、魅力ある部活動の推進を行ないます。

2 部活動休息日

- ・放課後、学校一斉の部活動休息日を定めている学校の割合は、昨年度82.0%でしたが、今年度は85.6%となりました。

県では生徒の学校生活にゆとりを確保し、健康を保持することを目的とし、運動部活動の休息日の設定をお願いしてきています。学校一斉の休息日を定めている学校数は増えてきており、休息日の未設置の学校に対しても、その必要性について周知をしていきます。

3 週休日等の部活動

- ・土曜日、日曜日・祝祭日の部活動については、昨年度は「郡市校長会等の申し合わせ、確認事項により実施した」と回答した学校が一番多かったのですが、本年度は「年間を通して計画的に実施した」と回答した学校が一番多くなりました。

週休日、休日の活動については、年間を通じて計画的に実施する学校が増えてきました。週休日、休日のスポーツ活動を保障するため、「可能な限り地域のスポーツクラブとして実施できるようにする」ことをお願いしてきています。生徒の健康面を考慮し、休日の部活動、地域のスポーツクラブの活動について、それぞれが連携をとり、過度な活動にならないように計画的な実施を周知していきます。

4 地域のスポーツクラブでの活動等

- ・地域のスポーツクラブと連携していると回答した部活動は970部で、全運動部活動数1480部の65.5%に当たります。過去5年間では地域のスポーツクラブとして活動する部数は増加の傾向にあります。
- ・地域のスポーツクラブの指導者は、「学校の部活動顧問と地域の指導者」で当たる場合が最も多く、「学校の部活顧問のみ」、「地域の指導者のみ」という回答が続きました。
- ・「地域の指導者のみ」の回答は昨年度の12.1%から本年度14.1%に増加し、地域の指導者の活用が進む一方、「部活顧問」の回答は昨年度の30.8%から本年度34.6%に増加しています。学校職員の負担も増えている傾向にあります。

近年、地域のスポーツクラブと連携する部活動が増えてきています。中学生期のスポーツ活動を地域で支えるシステムが構築されつつあることは望ましいことなのですが、場合によっては、部活動の延長として活動しており、構成メンバーが全く同じであり、それらの組織、活動の境界がなく活動している実態もあります。

また、指導者についても地域の指導者の割合が増えてきたことは望ましいことではありますが、部活動顧問の割合も増えてきており、教職員の負担にもつながっています。

部活動は学校の管理下で行なわれる活動なので、一定の枠の中で活動が行なわれます。地域のスポーツクラブは任意の組織であるため、ともすると活動量が多くなり、一部に生徒、教師ともに疲労しているという事例も聞いているところです。

上記にあるような課題を解決するために、地域のスポーツクラブの実態調査等の実施により、現状を把握し、効率的に部活動が行なわれるような方向を示していきます。また、生徒の健康面からも、成長期のスポーツ活動のあり方について研究を進めていきます。

5 スポーツ活動運営委員会

- ・地域・学校・家庭がともに力を合わせ、生涯学習の一環としてのスポーツ活動を生徒に保障するため、中学校への設置を推進している「スポーツ活動運営委員会」は、本年度139校に設置されています。昨年度の同じ時期より9校増えています。

スポーツ活動運営委員会の設置については、すべての学校での設置を目指しています。県ではスポーツ活動運営委員会へのオブザーバー参加などを行い、委員会が形だけのものとならぬように、運営支援に重点を置いて活動しています。部活動と社会体育の関係、外部指導者との連携等、中学生期のスポーツ活動に関する課題について、よりよい方向性を見出す会として、機能できるように周知していきます。

また、生徒の健康面から部活動を検討していくために、委員会への養護教諭等の参加を進めていきます。